



29. マスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha* (Walbaum) 図版12

英名 chinook salmon, king salmon, spring salmon, quinnat

salmon

露名 チュウイチヤ  
чавыча

地方名(北海道) スケ、オオスケ、ラシャ、ラシャマス

漢字 ますのすけ おおすけ  
鱒之介、大介

アイヌ語名 メトチペ、ケネウ、チアロクンネ、アペケシ

【形態】 体は紡錘形で側扁\*し、背部は青緑色、体側は銀白色、腹部は白色。背部、背びれのほか尾びれ全体に小黒点が散在する。頭部は黒みを帯びる。尾びれには付け根から扇状に銀白色の部分が広がる。サケ属\*魚類のなかでは最も大きく、ふつう全長\*90cm、体重10kgほど。全長で147cm、体重で61kgの記録がある。比較的体高\*が高く、眼が下方にあること、下あごの歯の付け根が黒いこと、小黒点のある位置などでほかのサケ属魚類と区別できる。

【生態】 海洋での分布は北緯40度以北の太平洋、オホーツク海、ベーリング海、日本海。産卵のため遡上\*する河川は、アジア側はアムール川からアナデイル川まで、北米側はカリフォルニア南部からアラスカのホープ岬までの大きな河川に限られる。遡上する魚の数は北米側で多く、アジア側では少ない。このほかニュージーランドに移殖\*され、再生産\*している。日本沿岸には、春から初夏にかけて主に北海道の太平洋側に来遊する。北海道の河川に遡上した記録もあるが、再生産はしていない。

本種の生活史には、2つのタイプがある。1つは幼魚\*期に河川に長くとどまるタイプで、浮上\*後1年またはそれ以上を河川で生活し、幼魚が銀毛\*変態\*したスモルト\*となって川を下り、降海\*後は広い範囲を回遊\*して産卵の数カ月前の春から夏に河川に回帰する。回帰する成魚\*は2年魚\*から8年魚まで。北米北部およびアジアの河川の群、そして北米南部の河川の上流域で産卵する群がこれにあたる。

もう一方は早くに海に下るタイプで、浮上後3カ月以内に4～5cmの稚魚\*で降海し、沿岸域を回遊、産卵直前の秋に川に戻る。成魚は2年魚から6年魚まで。北米南部の河川下流域で産卵する群がこれにあたる。

産卵場所は、河口域から1,000km以上上流までの広範囲に及ぶ。雌1個体の産卵数\*は2,000～1万7,000粒で、高齢で大型の親魚ほど、また北の系群\*ほど卵数が多い傾向がある。卵は直径6.3～7.9mm。受精からふ化までの適水温は6～14°Cである。卵はほかのサケ属に比べて低酸素に弱く、稚魚は臆病な面があり飼にくい。降海後の成長は速く、2年で全長50cm、3年で75cm、4年で80cm、5年で100cmになる。